

桂スチール

二次加工
専用工場

岡山に11月開設

BH大型サイズ対応

桂スチール(本社II兵庫県姫路市、三木桂吾社長)は今年11月に岡山県備前市内にBHの大型サイズや大

型鋼構造部材に対応した二次加工専用工場を開設する。投資金額は約3億円で、開設後はBHで最大2500×

1000mmサイズの極厚物の二次加工を自動化対応していく。設備は10月末にイタリア製の高性能な大型切断機

1基と大型対応の穴開け・開先の複合機「エントパー」1基を導入する。また、来年1月には同工場にハタリー

製の大型対応の最新鋭の開先機1基を新設する。

同社は国内最大手のBH製作者で、生産拠点としては岡山第1工場、岡山第2工場、岡山第3工場、岡山第5工場、玉野工場(岡山県玉野市)、玉野第2工場(同)を有している。BHの二次加工については岡山第3工場の専用の2ライン(切断・穴開け・開先一貫ライン)で、ウエブ高1500mmまでは自動化対応、それ以上のサイズは同設備の屋外スペースなどで手動対応していた。

しかし、首都圏の再開発物件は高層化し、工場・物流倉庫も大型

化。これらの鉄骨工事で使用するBHも大型サイズ化してきている。また、プラント関連の工事も大型化してきており、これらの工事に使われるフランジ材についても大型サイズとなってきた。

同社ではこうした鋼構造部材の大型化の二次加工を効率的に行うには自動化対応した専用工場の開設が必要と判断、整備を進めている。具体的には今年6月に岡山第2工場の近接地に専用工場とする分工場建屋(建屋面積約1300平方メートル)を建設。10月からイタリアのフィセップ社製の大型対応の切断機1基と穴開け・開先の複

合機1基「エントパー」の導入作業を開始、同月末に完了させ、11月から両設備を稼働させる。来年1月には同工場にハタリー製の大型対応の開先設備を導入し、大型物の二次加工体制を強化する。

設備の仕様はイタリア製の切断機がウエブ高で最大2500mm、フランジ幅で最大800mmの加工が可能。複合機の「エントパー」はウエブ高で最大2500mm、板厚で最大80mmで加工が可能。なお、第2工場に導入し未使用だったアマタ製の切断機1基(ウエブ高で最大1300mm対応)

は第3工場に移設し、10月末から稼働させる。